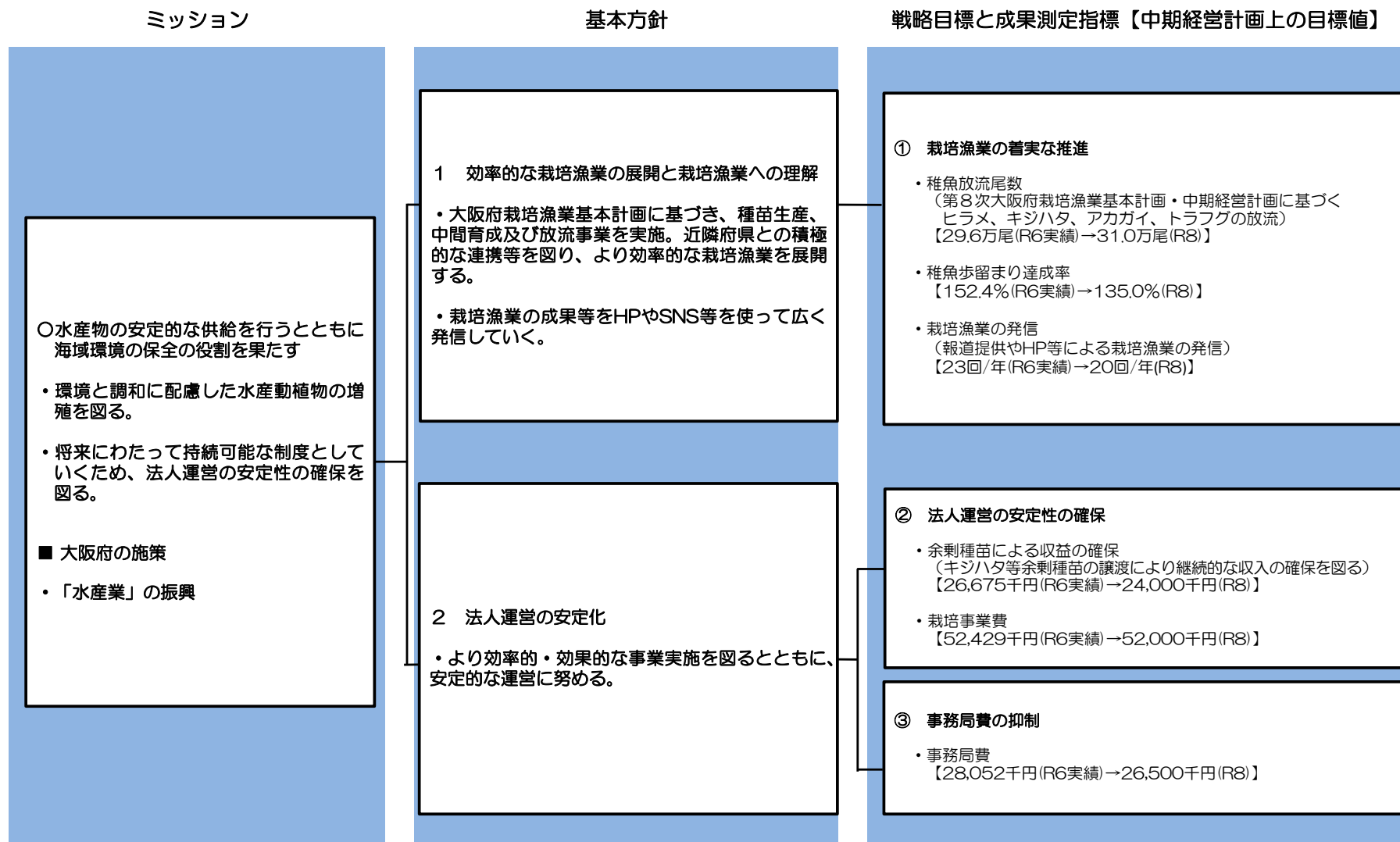


法人名	公益財団法人 大阪府漁業振興基金
作成(所管課)	環境農林水産部水産課

○ 経営目標設定の考え方



○ 令和7年度の経営目標達成状況及び令和8年度経営目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)													
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 実績値	R7 目標値	R7 実績値 [見込値]	R7 ウエイト	R7 得点	R8 目標値	R8 ウエイト	中期経営計画 (R4~R8)		R8目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
											R8 目標値	最終年度 目標値	
① 栽培漁業の着実な推進	稚魚放流尾数		万尾	29.6	29.0	31.9	50	50	↓31.0	50	31.0	31.0	R3年度までは、ヒラメ、キジハタ、アカガイの3魚種。R4年度からは、トラフグを加えた4魚種を対象とし、中期経営計画の最終年度の目標の達成に向け、段階的にトラフグの放流尾数を増加する目標とした。(第8次大阪府栽培漁業基本計画)
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)											戦略目標達成のための活動事項		
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<p>○大阪府海域ではベイエリア開発等により、親魚の産卵、稚魚の成育の場となる藻場や干潟が減少したため、この時期を人為的に管理する栽培漁業の取組みは極めて重要な政策課題。</p> <p>○府の水産課のマスタープランである「大阪府豊かな海づくりプラン(Ⅲ期)」や「第8次大阪府栽培漁業基本計画」において、栽培漁業の推進、放流効果の高い魚種への特化を重点施策として位置づけ。</p> <p>○当法人でも、府内の漁業の発展と漁業者の生活安定を図る観点から、大阪湾における水産資源の回復・維持と漁業生産の向上を目指すこととしている。</p>												
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○令和4年度から始った第8次大阪府栽培漁業基本計画(令和4年度～令和8年度)の新規の放流魚種(トラフグ)の安定的な放流を行うため稚魚の育成技術の開発や放流適地の把握など知見を蓄積する。</p> <p>○生産・放流技術が確立した魚種については、生産コストを削減するための技術の開発、他府県との連携を進める。</p> <p>○新たに取組む魚種(メバル)については、中間育成技術の確立や放流適地、効果把握について環境農林水産総合研究所と連携を図りながら進める。</p>												
活動方針	<p>○令和4年度から始った第8次大阪府栽培漁業基本計画(令和4年度～令和8年度)に基づき種苗生産を確実に行う。</p> <p>○本事業を円滑に実施するため、施設の維持管理や推進体制の維持・構築に留意する。</p> <p>○大阪府及び地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センターとの業務分担、連携によって、円滑に栽培漁業を推進する。当法人においては、研究所と連携し、より放流効果の高い健全な種苗の生産・育成を行い、資源増大を図るとともに、大阪府が中心となって、漁獲された放流魚の付加価値向上を図る。</p> <p>(業務分担) >大阪府:栽培漁業基本計画の策定及び進捗管理、栽培漁業推進協議会の運営等 >研究所:栽培対象種放流後の効果把握のための調査研究、新魚種の種苗生産放流技術開発、基金への指導、施設の維持管理 >基金:栽培漁業基本計画に基づく種苗生産放流事業の実施</p>												
											<p>○第8次大阪府栽培漁業基本計画(令和4年度～令和8年度)の遂行</p> <p>○栽培センター事業充実のための施設、推進体制の検討</p> <p>○近隣府県との連携 ・稚魚の餌となるフムシの安定的な確保 ・余剰種苗交換等効率的な栽培漁業の展開</p> <p>○第8次計画対象魚種の生産・放流技術開発の推進 ・ヒラメ:春季に稚魚を調達することで、使用燃油の削減等効率的な飼育を行う。 ・キジハタ:目標放流数11万尾を安定生産するための親魚の適正管理による卵の確保、定期的な間引き・選別による歩留まりの向上を図る。 ・アカガイ:30mmの大型種苗の放流を行うことにより、放流効果の向上を図る。 ・トラフグ:適正な中間育成の実施により放流後の生残率を高める。</p>		

法人名	公益財団法人 大阪府漁業振興基金
-----	------------------

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R6 実績値	R7 目標値	R7 実績値 〔見込値〕	R7 ウエイト	R7 得点	R8 目標値	R8 ウエイト	中期経営計画 (R4~R8)		R8目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の 場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
											R8 目標値	最終年度 目標値		
① 栽培漁業の着実な推進	稚魚歩留まり達成率 (実績歩留まり率(*1)/計画歩留まり率(*2)) (*1)R7実績歩留まり率=放流尾数/種苗生産尾数=63.2% (*2)府栽培漁業基本計画の歩留まり率の考え方=50%		%	152.4	135.0	×126.4	15	0	135.0	15	135.0	135.0	栽培漁業センターの種苗生産能力や技術レベルを踏まえて中期経営計画の目標値を設定	稚魚の餌となるワムシの安定確保や栽培技術力の向上等による効率的、効果的な種苗生産・放流の実施
	栽培漁業の発信 (報道提供やHP等による栽培漁業の発信)		回	23	25	28	5	5	28	5	20	20	R7年度・R8年度は、第45回全国豊かな海づくり大会「魚庭(なにわ)の海おさか大会」の開催を踏まえ、積極的に情報発信を行うこととし、中期経営計画より8回多い目標値を設定	種苗生産現場や放流風景等を報道提供やHP、SNS等により発信する

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

② 法人運営の安定性の確保	余剰種苗による収益の確保		千円	26,675	24,000	[33,289]	10	10	↓27,000	10	24,000	24,000	稚魚を生産する際にできる余剰種苗の生産量、R8年度は新たな売却先(1団体)が見込まれることなどを踏まえ、中期経営計画を上回る目標値を設定 ※R7年度は、他生産機関でキジハタの確保ができなかった団体等による購入があったため実績額(見込値)が増加	産卵親魚の仕立て、稚魚の選別等技術の向上による生残尾数の増加及び譲渡先の開拓
	栽培事業費		千円	52,429	52,500	×[58,575]	10	0	52,000	10	52,000	52,000	中期経営計画に基づき目標値を設定 ※計画中間見直しにより、第45回全国豊かな海づくり大会「魚庭(なにわ)の海おさか大会」に係る受託事業費(R7:2,500千円、R8見込:2,000千円)を含む額に修正	R1年度から取り組んでいる一部魚種の種苗生産・調達方法の見直しによるコスト削減を継続するとともに、その他経費(消耗品等)の削減努力を行う
③ 事務局費の抑制	事務局費		千円	28,052	28,052	×[28,441]	10	0	↓29,300	10	26,500	26,500	管理費については、人件費等の固定費が多くを占め、大幅削減は困難な状況。R8年度もR7年度と同水準の府の給与改定が実施されると想定し目標値を設定。	引き続き、計画的な業務執行による残業の抑制など人件費の抑制に取り組むとともに、その他事務経費の削減に努める
						R7得点合計 〔見込得点合計〕	〔65〕							

- 【凡例】
- ・☆はR8年度からの新規項目
 - ・×は目標値未達成
 - ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
 - ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
 - ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名	公益財団法人 大阪府漁業振興基金
-----	------------------

CS調査の実施概要

○令和7年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
体験放流を通じて栽培漁業の認知度を把握する	体験放流に参加した小学生等を対象にアンケートを実施	イベントに参加し体験放流を行った小学生等	222名	令和7年5月～11月

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
<p>栽培漁業の認知度について聞いたところ、知っているが58.2%が知っているという回答であった。 (令和6年度は知っている45%)</p> <p>【令和7年度の結果】 知っている：58.2% 知らない・わからない：41.8%</p>	<p>(結果を踏まえ実施した取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験放流時に、パネル等を活用し大阪府で行っている栽培漁業の取組みの説明を実施。 <p>(今後実施予定の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPやSNS等を通じ、栽培漁業の取組みについて情報を発信していく。 ・引き続き、体験放流などの機会を通じ、放流魚種や栽培漁業について紹介していく。

○令和8年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
体験放流を通じて栽培漁業の認知度を把握する	体験放流に参加した小学生等を対象にアンケートを実施	イベントに参加し体験放流を行った小学生等	200名	令和8年5月～11月

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府漁業振興基金

[1]

成果測定指標	単位	R7年度目標値	R7年度実績値	目標値との差
稚魚歩留まり達成率	%	135.0	126.4	△ 8.6

未達成の要因				要因分析(要因と考える根拠)						要因分析を踏まえた今後の対応
①	ヒラメの歩留まり率の低下			他機関から入手したヒラメ稚魚17万尾に大量のへい死が発生し、歩留まり率が26.5%となった。このため、急遽、他府県の栽培センターから、選別後に不要となった稚魚11.3万尾を譲渡してもらい、これの歩留まり率は85.8%であった。その結果、ヒラメ全体の歩留まり率が50.2%となった。 (参考) 令和6年度のヒラメの歩留まり率は74.2%						今回のヒラメのへい死は原因不明(ウィルス検査も陰性、入手先でも同様のへい死が発生。) 今後は入手前に、入手先の生産状況を逐一確認し、不調であれば入手先変更なども含め対応を検討。
	関連項目名	ヒラメ歩留まり率	単位	%	R7当初想定値	73.3	R7実績値	50.2	差	

■ 目標値未達成の要因について

[2]

成果測定指標	単位	R7年度目標値	R7年度実績値	目標値との差
栽培事業費	千円	52,500	[58,575]	6,075

未達成の要因		要因分析(要因と考える根拠)					要因分析を踏まえた今後の対応			
①	餌代等の増加	令和8年11月の「全国豊かな海づくり大会大阪大会」開催に伴い、令和7年度途中に令和8年度のキジハタ放流時期を例年の4月・10月から4月に変更することが決定。このため、令和7年度にキジハタの生産量が例年より増加するとともに飼育期間が長くなったことから、餌代等の費用が増加。 (参考)キジハタ生産尾数:R6年度 36.3万尾、R7年度 61.7万尾 また、令和8年度から餌代の値上がりが見込まれるため、前倒して餌等を購入したことで餌代が増加した。(約1,800千円)					令和8年度は例年と同数のキジハタ生産を計画していることから、餌の量は増加しない見込み。 令和7年度に前倒して餌を購入したため、令和8年度は増額しない見込み。			
	関連項目名	餌料費	単位	千円	R7当初想定値	4,618	R7実績値	11,646	差	7,028

■ 目標値未達成の要因について

法人名 公益財団法人 大阪府漁業振興基金

[3]

成果測定指標	単位	R7年度目標値	R7年度実績値	目標値との差
事務局費	千円	28,052	[28,441]	389

未達成の要因				要因分析(要因と考える根拠)						要因分析を踏まえた今後の対応
①	人件費の増加			当法人の給与は府の水準に準拠しており、人件費(給与手当、福利厚生費、賞与引当金)について、府の給与改定により、想定より増加した。						引き続き、計画的な業務執行による残業の抑制など、人件費の抑制に取り組むとともに、光熱費等その他事務経費の削減に努める。 なお、次期中期経営計画においては、今後想定される人件費増加を見込んだ収支計画を立てる。
	関連項目名	給料手当 福利厚生費 賞与引当金	単位 千円	R7当初想定値	22,370	R7実績値	22,684	差	314	

■ 令和7年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

[1]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値
稚魚放流尾数	万尾	31.9	31.0

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>令和7年度は、目標の29万尾に対して31.9万尾と上回った。これは、ヒラメが目標10万尾に対して11万尾、キジハタが目標11万尾に対して12.6万尾、トラフグが目標3万尾に対して3.3万尾となったことによる。</p> <p>令和8年度については、中期経営計画(第8次大阪府栽培漁業基本計画)の最終年度であり、府基本計画に基づく放流目標である31万尾を着実に放流できるよう、最終年度(令和8年度)の目標尾数を目標値としている。</p> <p>具体的には、ヒラメ等の3種は令和7年度目標と同数、トラフグについては、令和7年度の目標3万尾に対して、令和8年度目標は5万尾と2万尾の増加を図る。</p>
-----------------------------------	--

[2]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値
栽培漁業の発信	回	28	28

<p>マイナス (現状維持) 目標の考え方</p>	<p>令和7年度は、令和8年11月開催の「全国豊かな海づくり大阪大会」の機運醸成も図りながら栽培漁業の発信を1年間通して実施し、目標値の25回を超える28回の情報発信を実施。</p> <p>令和8年度については、同大会が開催される11月に向け、情報発信を進め、令和7年度と同様に、中期経営計画の目標(20回)を上回る28回を目標値としている。</p>
-----------------------------------	---

■ 令和7年度実績比 マイナス(現状維持)目標の考え方について

[3]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値
余剰種苗による収益の確保	千円	[33,289]	27,000

マイナス (現状維持) 目標の考え方	<p>令和7年度は、例年購入してもらっている団体等に加え、他の生産機関でキジハタの確保ができなかった団体等による購入があったため、実績額が一時的に増加。</p> <p>令和8年度は、前年度のような大幅な増加は発生しないが、新規1団体への売却が見込まれることなどから、中期経営計画の目標24,000千円を上回る27,000千円を目標としている。</p>
--------------------------	---

[4]

成果測定指標	単位	R7年度の実績値〔見込値〕	R8年度の目標値
事務局費	千円	[28,441]	29,300

マイナス (現状維持) 目標の考え方	<p>これまでも削減努力をしてきたが、人件費等の固定費が多くを占め、大幅な削減が困難な状況。R8年度もR7年度と同水準の府の給与改定が実施されると想定し目標値を設定。</p> <p>管理費の抑制のため、引き続き、計画的な業務執行による残業など人件費の抑制に取り組むとともに、光熱費、旅費、コピー用紙・印刷費などの事務費の削減に努めていく。</p>
--------------------------	---